特集　福岡女学院大学大学院　臨床心理学専攻開設20周年記念シンポジウム

臨床心理士のアイデンティティに基づいた心理臨床実践について

修了後９年目時点で考える臨床心理士のアイデンティティ「患者と家族の主体性を守る」

有　川　　まどか*

The Identity of a Clinical Psychologist Thinking 9 Years After Completing Graduate School: “Protecting the Independence of Patients and Their Families”

Madoka Arikawa

１．はじめに

私が、今回のシンポジウム「臨床心理士のアイデンティティに基づいた心理臨床の実践について」というテーマをいただいたとき、学生時代、福岡女学院のある先生がおっしゃっていた言葉が思い浮かんだ。それは「仕事のできる人ではなく“先輩に可愛がられる人”を育てたい」という言葉だった。当時、その言葉を聞いた学生時代の私は、その言葉の意図する意味が正直分からなかった。そのため、心の中では「いや、仕事のできる人になりたいです…」と思っていた。先生が福岡女学院で育てたいと話されていたのはどのような人のことなのか…。先輩に可愛がられる礼儀正しい人のことなのか、甘え上手な人のことなのか…。先生の言葉がふとした時に思い出されその意味を時々考えていた。、そして、入職後すぐの頃に、職場の先輩に「どういう意味だと思いますか？」と尋ねたことがある。その時先輩は「検査のとり方や知識は入職してから身につければいい。でも、人との向き合い方を身につけることは難しい。だから、人に向き合える人を育てたいってことじゃないか」と答えてくださった。しかし、入職後すぐの頃の私は「人と向き合える人…分かるような、分からないような…」程度の理解しかできなかった。“先輩に可愛がられる人”“人に向き合える人”ってどのような人なのか。今回「修了後９年目時点」でのこの問いに対する私の考えをまとめることで、本シンポジウムのテーマである臨床心理士のアイデンティティについて考えてみたい。

考えていくにあたり、１）職場の理解、２）架空事例の紹介と支援の実際、３）まとめの流れで論をすすめていく。

*北九州市立総合療育センター

２．修了後９年目の時点で考える臨床心理士のアイデンティティとは

１）職場の理解

女学院の大学院を修了してから働いている私の職場は、北九州市立総合療育センターである。利用者は、障害や不適応がある子どもと幼少期より何らかの障害があった大人の方である。障害は身体、知的、発達障害、精神等であり、その種類は問わない。生後すぐの赤ちゃんからお年寄りまで幅広い年齢の方と、多様な状態の方が利用する。病院機能と社会福祉施設機能を併せ持つ特徴を生かし、利用者の状態や家庭の事情に合わせて、外来、入院、入所、通所、家庭や他施設への訪問等様々な形態で支援を提供することが可能である。その中での心理士の役割は、支援形態を問わず「利用者なりの生活への適応のため、利用者の特性（認知・対人・行動など）を評価、整理し、工夫や配慮を考える」ことである。

２）架空事例の紹介と支援の実際

名前：Ａさん

年齢：成人

主訴：生活の中の困りごとを相談したい

当センターでの利用サービス：医師、作業療法士、心理士それぞれの外来

特徴：・知的障害はない。

・考えが次々と広がり、整理しにくい。

・人の気持ちや状況を理解することが難しい。状況理解が難しいため、物事の優先順位をつけることが苦手。

・不器用さがあり、体を思うように動かすことが難しい。そのため、お茶をこぼさずにつぐ、掃除機を上手に動かして掃除をする等が難しい。

・自分の特徴については部分的に理解している。
・Ａさんはできるだけ他者のサポートをかりず生活したいと考えている。

心理士との面接構造：Ａさんが生活の中で困っていることを主なテーマにした定期的な言語面接。

概要

面接の中で心理士が行っていることは「Ａさんと一緒に、話を整理すること」「Ａさんの希望を確認し、どうすれば希望に近づけるか一緒に考えること」である。Ａさんは、話が広がりやすく、ご本人も考えがまとまらないことがあるので、まずはＡさんのお話を聞き、何を相談したいのかを毎回整理する。そして、１つ１つの相談事に対してＡさんの希望を確認し、どうすれば希望に近づけるか一緒に考える。例えば、「掃除機をうまく動かして掃除ができない」という相談に対し、Ａさんの希望をお尋ねしたところ「自分で掃除機を使って、きれいに掃除ができるようになりたい」とＡさんが話されたとする。現実的に考えると、別の人に掃除を頼んだり、お掃除ロボットを使ったりした方が、Ａさんの労力も時間も削減できるであろう。しかし、それはあくまでも、私個人の考え方である。Ａさんの生活であり、Ａさんの人生なので、Ａさんが何を選択されるかが大切にされるべきである。Ａさんが、自分自身で掃除機をうまく動かして掃除することを望む限り、壁にぶつかる気持ちを共有しながら、どうすれば希望に近づけるか一緒に考える。

このようにＡさんへの心理士の関わりの目的は、Ａさんの考えを一緒に整理し、Ａさんの気持ちに寄り添いながら、Ａさんの生活、人生への希望が、どうすれば少しでも叶う方向に近づくかを一緒に考えることである。それは、Ａさん自身が、自分の生活に充実感をもてるようにサポートすることとも言える。

３）まとめ

架空事例の中で、心理士の関わりの目的は、利用者が自分の生活に充実感をもてるようにサポートすることであると述べた。私にとってそれが心理士として大切にしていることであり、アイデンティティなのだが、それは言い換えれば、利用者と家族の主体性を守り、尊重することである。その上で、心理士である自分にできることを真摯に考えることを大切にしている。利用者と家族の気持ち、希望、価値観を知り、心理士がそれを具体的に想像し、尊重しながら、もし生活に困難があれば、心理士である自分にできることを客観的に考える。もしかしたら、この事は、当たり前で、心理士のアイデンティティと銘打たなくても支援者であれば、どの職種でも意識していることのように感じられる人もいるかもしれない。しかし、多くの利用者の方を限られた時間の中で支援していくような状況にあると、無意識のうちに支援者の価値観で、より効果があると思われる支援を提供することに視点を向けがちになってしまうのではないだろうか。そうした状況においても利用者とその家族の気持ち、希望、価値観を尊重できるのは、心の専門家である心理士であると考える。

心の専門家として私が福岡女学院で、利用者とその家族の気持ち、希望、価値観を尊重する大切さを特に学んだと感じるのはやはり、東日本大震災の支援である。支援の内容は、仮設住宅の集会所のようなところで動作法を行うという内容だった。その時、動作法について学んだのはもちろんだが、現地の方々の生活に直に触れ、それぞれに生活があり、また生活に根差した関係性や価値観があるということに気付けたことが大きな財産になっていると思う。そしてその時の気づきが、利用者と家族の生活、関係性、価値観に重きを置いて支援を考える基礎になったと思う。20周年をむかえた福岡女学院大学大学院だが、今後もこのような学びの経験の場が続くことを願う。

さて、話は少しそれたが、発表冒頭でテーマに挙げた“先輩に可愛がられる人”“人に向き合える人”ってどのような人なのか。当時はあいまいだったその問いに対して私は今、「利用者と家族の主体性を守りながら、その上で、自分にできることを真摯に考えられる人」と答えたい。、そしてこれが臨床心理士のアイデンティティだと、私は「現時点」で実感を持ちながら考えている。

３．最後に

福岡女学院大学大学院人文科学研究科臨床心理学専攻開設20周年をお祝いするとともに、在学中も修了後も温かいご指導をくださった先生方はじめ、関係者の皆様にお礼申し上げます。また、今回のような発表の場をいただけたことにも、感謝いたします。

注）本稿は、福岡女学院大学大学院人文科学研究科臨床心理学専攻開設20周年記念シンポジウムでの発表を編集したものである。

臨床心理士の
アイデンティティに基づいた
心理臨床の実践について

～修了後9年目、心理職の一報告～

北九州市立総合療育センター　有川まどか

～院生時代～

仕事のできる人でなく
“先輩に可愛がられる人”を育てたい

～院生時代～

どういうこと？
（仕事のできる人になりたいです…）

～入職後、すぐの頃～

検査のとり方や知識は
入職してから身につければいい。

でも、人への向き合い方を
身につけることは難しい。

～入職後、すぐの頃～

わかるような、
わからんような…

臨床心理士の
アイデンティティに基づいた
心理臨床の実践について

～修了後9年目、心理職の一報告～

北九州市立総合療育センター　有川まどか

目次

① 職場の紹介

② 具体例を通しての考察

③ まとめ

職場の紹介

当センターの利用者

- 障害や困難がある子ども
- 幼いころから障害があった大人

※障害の種類は身体、知的、発達障害を含む精神等、問わない

当センターが提供する支援

総合療育センター ＝ 病院 ＋ 社会福祉施設

●利用者の状態や家庭事情に合わせて、外来、入院、入所、通所、訪問(家庭や他施設)等様々な形態で支援を提供する

当センターで心理士が担っている役割

利用者なりの生活への適応のため

利用者の特性（認知・対人・行動など）を評価、整理し

工夫や配慮を考える

目次

① 職場の紹介

② 具体例を通しての考察

③ まとめ

ケース紹介～プロフィール～

本稿には不掲載とする

ケース紹介～Aさんの特徴～

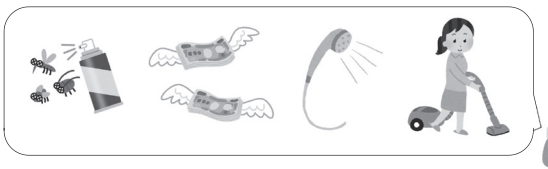
本稿には不掲載とする

ケース紹介～ある日の心理外来での相談～

本稿には不掲載とする

ケース紹介～心理士がすること①～

- Aさんと一緒に、話を整理する



ケース紹介～心理士がすること②～

・Aさんの希望を確認し、
どうすれば希望に近づけるか一緒に考える

ケース紹介～心理士の関わりの目的～

・Aさん自身が、自分の生活に充実感をもてるように
サポートすること

目次

① 職場の紹介

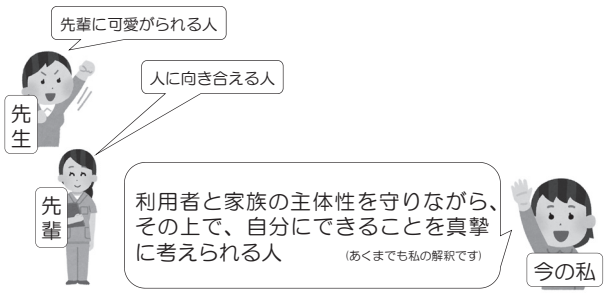
② 具体例を通しての考察

③ まとめ

心理士として大切にしていること

アイデンティティ

・利用者と家族の主体性を守ること。
その上で、自分にできることを真摯に考えること。

大学院で学んだこと

～修了後9年目の私の答え～